

内容

平成30年度 事業報告総括.....	1
1. 基本方針.....	2
2. 職員目標.....	2
3. サービス計画.....	2
(1) 活動計画の評価.....	2
(2) 入居者個々の介護支援計画.....	2
(3) 生活支援（ユニット処遇）.....	3
(4) 食事・栄養.....	10
(5) 健康管理・医療体制.....	14
(6) 機能訓練.....	16
(7) 事故防止.....	16
(8) 年間行事.....	19
4. 衛生管理.....	20
5. リスクマネジメント.....	21
6. 苦情解決.....	21
7. 防災安全対策.....	22
8. 設備管理計画.....	22
9. 地域活動.....	24
10. ご家族との交流.....	25
11. 個人情報の保護.....	25
12. 会議・委員会・ミーティング・担当.....	25
13. 研修.....	28
14. 事務・管理.....	31
資料 年間利用状況.....	32
平成30年度 短期入所生活介護 事業報告.....	35
平成30年度 通所介護 事業報告.....	37
平成30年度 寺小屋 結いまーる 事業報告.....	39
社会貢献事業 事業報告.....	41

平成30年度 事業報告総括

平成30年度は、介護保険制度も見直され引き続き厳しい時代の流れを受けながら社会福祉法人として使命を果たすために地域に根ざした施設づくりに取り組み続けてまいりました。安心して暮らし続けていただける施設として、今まで築いてきた成果を大切に今後も満足していただけるように、サービスの維持向上に努めてまいりました。人材確保については昨年と変わらず厳しい状況が続いており、福祉関係の学校からの紹介や人材紹介等を活用し確保してまいりました。また、事業計画の一つひとつの課題で達成できなかったことについては、今後の課題としてしっかりと取り組んでまいります。今後も変化に対応した長期的な計画性のある運営が必要となるため、更なる向上心を忘れずに事業運営に取り組んでまいります。

介護老人福祉施設 陽だまりの丘

1. 基本方針

本年度は、入居者の心身の状況に応じた適切なサービスを行うため、職員間の連携を図り、穏やかに生活できることに繋げた。要介護度の高い高齢者の方増え、介助や事故のリスクが起りやすい状況ではあったが、他部門との連携を強化し、安心して生活していただけるよう支援を行った。今後も、職員の資質の向上を図り、適切な技術をもって支援できるよう継続して取り組みを行って行く。また、地域に開かれた施設として、ボランティア活動や実習生の受け入れなど、地域との交流を深める取り組みを行った。

2. 職員目標

(1) 相手の立場に立ち、楽しく生活できる環境づくりに努めます。

入居者の方々の思いに耳を傾け、笑顔の多い職場作りを心がけた。

(2) 自己の役割を意識し、専門性を高めます。

職員一人ひとりが職務に責任をもって、専門職としての誇りを持つように心がけた。

(3) 報告・連絡・相談を細かく実行し、良好なコミュニケーションを図ります。

他部門との連絡が不十分な時があったり、職員同士なれ合いになったりする時があったが、挨拶や言葉かけを積極的に行い、コミュニケーションに繋げた。

3. サービス計画

(1) 活動計画の評価

- 1) 今年度の退所数は6名、退所から次の入所までの期間が平均27日となった。今後も空所期間の短縮を図り、稼働率アップに取り組んでいく。
- 2) 医療と介護で細かいところまで、情報を共有することで体調不良の早期発見・早期対応をすることで、速やかな受診対応ができるようになった。しかし今年度は、12月と2月にインフルエンザが蔓延し2名の入居者が入院となった。
- 3) 入居者の趣味や好みに沿ったレクリエーションやボランティア活動を行うことで、楽しんで頂けるように心がけた。また、地域での催しに参加したり、地元の地車を見学させて頂いたり交流を深めることができた。
- 4) 日常的に使用する機器については、点検チェック表を置き定期的に確認を行い、入居者が安全に生活できるように努めた。年間を通して設備や機器の修理・破損が多かったので、今後も丁寧な取り扱いを心掛け安全管理の徹底と環境整備に努める。

(2) 入居者個々の介護支援計画

1) 目標

- ①できる限り個人のご意向、又はご家族の意向を尊重し、楽しく快適に過ごしていただけるようプランに反映した。
- ②入居者が一日でも長く施設で安楽に過ごしていただけるよう、看護職員、介護職員と連携し、状態についてご家族と情報を共有した。
- ③入院された時は各部門と連携し、適時、病院に向かい状態を把握した。

2) ケアプランの作成

①ケアカンファレンス

- ・ケアプラン更新、変更、又は問題が生じた時は速やかに各担当者の時間を調整しケアカンファレンスを開催した。
- ・ケアカンファレンスにはご家族の参加を依頼するが、参加困難な時は事前にご要望等をお聞きしプランに反映した。
- ・ご本人の参加を促すが、参加困難な時は、情報を得ておきプランに反映した。

②ケアプランの作成

- ・定期的にケアプランを作成した。又、状況の変化やニーズに合わせケアカンファレンスを行い、速やかにケアプランを作成した。
- ・作成したケアプランはご家族、ご自身に説明し、承諾を得た。又、職員全員にケアプランの周知を図り、ケアの統一を図った。

③モニタリング

- ・ケアプランに沿ったケアが出来ているか、毎月、担当職員と共にケアプランのモニタリングを行い、評価を行った。

3) ご家族との連携

- ①入居者の状態を把握し、リスクも含めご家族と情報を共有した。
- ②会話しやすい環境を整え、ご意見を引き出し信頼関係の構築に努めた。
- ③各担当者と連携し、異常の早期発見に努め、問題発生時は適時ご家族へ報告した。

4) 入居について

①入居申し込み

- ・施設入居の問い合わせがあった時は、重要事項を説明し、施設案内を行った。
- ・入居申し込みがあった場合は、速やかにパソコン内に情報を入力した。
- ・入居候補上位のご本人、ご家族との面談を行った。
- ・入居待機者に適時連絡し、現在の状況を確認した。

②入居選考委員会

- ・毎月、入居選考委員会を開催し、入居待機者の情報を把握した。
- ・入居選考指針をもとに公平に次期入居者を選考した。

(3) 生活支援（ユニット処遇）

桔梗ユニット

目標	<ul style="list-style-type: none">・入居者の行動や気持ちに寄り添い、笑顔で生活が出来るように支援できた。・職員間の報告・連絡・相談を徹底し、個々に合ったケアの統一が図れた。・ユニット職員の協力を得ながら、ケアの質の向上に努めることができた。
食事	<ul style="list-style-type: none">・楽しい食事時間となるよう、入居者のペースや状態に合わせた、無理の無い食事介助を行うことができた。特に朝は、ゆっくりと眠られている方には、時間をずらして声かけし、その日のご本人の体調や気分に合わせて、無理なく食事介助を行なった。個々のペースに合わせて提供した。・個々のADLに合った食器やお箸、スプーンの使用を提案し、美味しく食して頂けるように心がけた。その方に合った、スプーンの大きさやコップ、軽いプラスチックの食

	器など検討する事ができた。
排泄	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のユニット会議はもちろん、状態に変化があれば、その都度、情報を共有し、快適に過ごして頂ける様に配慮した。 ・排泄表の排泄時間の記入を目安にし、排泄パターンを把握し、早期にトイレ誘導やオムツ交換を行い、洗浄や清拭にて、皮膚の清潔を保持した。 ・排泄介助時は、声かけの仕方に注意し、必ず、居室の扉は閉め、プライバシーに配慮し、安心・安全にサポートすることができた。
入浴	<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全に入浴して頂けるよう、個々に合った入浴方法を都度検討する事ができた。 ・室温やお湯の温度に気を付けて、ゆっくりと入浴して頂き、快適な時間を提供できるよう心がけた。 ・入浴時は、拘縮のある方には、無理のない程度にマッサージを行い、拘縮部分の緩和に努めた。
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の環境整備の際に、ゴミ集め、タンスの上やベッド周りの埃の除去を行い、整理整頓に努め、快適に過ごして頂ける様に配慮した。又、介助時の些細な時間も利用し、整理整頓に努めた。 ・床や椅子など、食べこぼしがあれば、速やかに除去し、衣服が汚れれば、速やかに更衣して頂き、清潔保持に努めた。台所は、常時、掃除ができたが、ステーション内は、靴の置きっぱなしや出した物は出しっぱなしなど、一部目立つ所もあった。 ・フロアの壁面には、季節感を感じて頂けるよう、その月に合った飾りを行った。落ち着いて過ごせる空間作りは少し足りなかったように思う。デイルームを使用するなどし、落ち着いて過ごせる空間を作れるように心がける。
衛生 健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に、爪が伸びていないか、耳垢がたまっていないか、個々の観察を行い、清潔保持に努めた。 ・排泄後や食事前は、手洗い・消毒を行い、感染予防に努めた。 ・生活のリズムを乱さず、自己の体調管理にも努めたが、12月後半に職員1名がインフルエンザに感染した。感染流行期の外出時のマスク着用など、より意識を高めた。
レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・前半は、ラジオ体操で体を動かしたり、歌を歌ったりできていたが、後半は、ADL低下に伴い、難しくなった。 ・季節感を感じて頂ける様、1人2回の外出や散歩で外気に触れる機会を設けることができた。
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯物たたみやタオル巻き、立位保持、散歩など、個々に合った生活リハビリを実施できた。 ・機能訓練指導員と情報を共有し、入居者の残存機能を活用し支援できた。
事故対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハット、事故報告書について速やかに振り返り、事故防止策を検討できた。又、ユニット会議にて再度、周知できた。 ・入居者の行動を把握し、職員間で意見交換し、居室の配置やベッドの向きを変えるなど、安全に配慮した環境を作り、事故防止に努めた。

向日葵ユニット

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者が安心・安全に生活できるようにその都度、家具の配置換えなど行い環境を整えた。 ・報告・連絡・相談については十分とは言えず、情報を共有し入居者に対応していく必要がある。
食事	<ul style="list-style-type: none"> ・喫食量の維持、増加に繋げるように食事形態の変更や栄養補助ドリンクの依頼等、入居者に合わせて工夫した。 ・食事中は昔の話やテレビの話題などから入居者に話を提供し楽しく食事出来るように配慮した。 ・個々の咀嚼、嚥下能力に合わせ、無理のない食事介助を行った。 ・誕生日やそれ以外の日にもお菓子作りなどをユニットで企画した。
排泄	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に合った排泄用具や時間・方法についてその都度検討、変更を行い、不快感が少なくなるよう配慮した。 ・誘導時や介助前の声掛けを行う際にプライバシーに配慮し、清潔に過ごせるように配慮した。 ・ヤクルトやジョアなどを依頼、飲用して頂き便秘予防に努めた。
入浴	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴時に全身観察を行い、内出血の出来やすい方にはファイルなどを作成し早期発見できるように努めた。 ・個々の ADL に合わせ、安全な入浴方法を行い、リラックスできる時間を提供した。
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のある CD や DVD を使用し、昔を懐かしんで頂く機会を設けた。 ・食後のテーブルや床、水回りの汚れはその都度除去し、清潔保持に努めた。 ・清潔な空間で過ごして頂けるよう、居室内の整理整頓を行った。 ・毎月定期的に車椅子の点検・掃除を行った。 ・毎月 2 回定期的にナースコールの点検を行った。
衛生 健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴後などに耳そうじや爪切りを適時行い、身だしなみを整えた。 ・入居者との会話や日々の様子に留意し、異常の早期発見を行った。 ・褥瘡予防のため、長時間同じ姿勢にならないよう、体位変換や座り直しを行った。
レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・縫物など出来る方を中心に行って頂いた。 ・洗濯物やタオルを巻くなど出来る事は依頼し感謝を伝え、達成感を味わっていただいた。 ・ボランティア行事に参加して頂き、他の方との交流を促した。
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・機能訓練指導員と情報を交換し、ここの能力にあった生活リハビリを行った。 ・移乗時の立位保持や車椅子の自操を促し、筋力低下を予防に努めた
事故対策	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の状態に合わせて、居室内やフロアの家具の位置をその都度検討し配置換えを行い、事故防止に努めた。 ・事故発生時は、すぐに要因と改善策を話し合い、改善策について周知し、再発防止に努めた。 ・ご家族面会時に日頃の様子を伝え、情報を共有した。また、事故及び内出血や怪我が見つかった場合もその都度、報告し信頼関係の構築に努めた。

水仙ユニット

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者とコミュニケーションを図り、要望や個人の生活リズムを把握し、思いに寄り添った援助を行った。 ・ご家族面会時は日頃の様子を伝え、情報を共有し信頼関係を深める事が出来た。 ・職員間や他部署職員との報告、連絡、相談を密にし、チームで援助できた
食事	<ul style="list-style-type: none"> ・眠たい様子の入居者に対して、時間をずらすなどの対応をし、個々の食事ペースを尊重し、楽しい食事時間を提供できた。 ・食事摂取時に吐き出される事が多い入居者に対して、各部門と連携し、食事形態を見直す事で、吐き出される事が少なくなった。 ・食欲不振時や嗜好で食事が進まない時は、無理に促さず、延食や米飯をお粥に変えるなど検討し実施できた。
排泄	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のユニット会議にて検討し対応できた。 ・居室の扉を閉めて排泄介助を行い、プライバシーに配慮できた。 ・排泄介助時は、一つ一つ動作の説明をし、安心安全な援助ができた。また、必要な入居者に対して陰部洗浄を行い、清潔を保持した。
入浴	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴時は、明るい話題を提供し、ゆったりと過ごして頂けた。 ・入浴時に全身観察を行い、内出血や爛れを早期発見できていた。 ・入浴時に、手や指のマッサージを行い、拘縮の緩和に努めた。
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・居室内の整理整頓を行い、居室内の掃除も行い、快適に過ごして頂けるように、環境を整えた。 ・食べこぼしがあれば、速やかに対応できていた。清潔の保持はできている。 ・毎月、車椅子の点検・清掃ができています。
衛生 健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ・食事前の手洗い・消毒は、感染の時期には出来ていたが、普段はできていない事が多かった。来年度、改めて意識して取り組む。 ・清潔な衣類を着用して頂けた。鏡の前で整容し、目脂の付着なく過ごして頂けるようにしていたが、すぐに目脂が出てくるのに対して小まめに対応できなかった。 ・日々の様子を記録し、些細な変化に他部署と連携し対応できた。
レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・無理なくレクリエーションへの参加を促した。牛乳パック積みやパズルに参加して頂き、他者との交流を深め、気分転換して頂けた。 ・誕生日は特別な日とし、ユニット職員・入居者と共にケーキを食べ、歌を唄い楽しんでお祝いできた。 ・体調や天候に配慮し、ひだまり小道の散歩や外出・外食して頂けた。
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・無理のない程度で立位保持や歩行・移乗・車椅子自操などを促し、上肢や下肢の筋力の維持に努めた。必要時は遠慮なく訴えて頂けるように、声掛けの仕方にも配慮した。 ・必要時は、機能訓練指導員に相談し、個人に合った生活リハビリを実施し、残存機能を保持して頂けるように支援した。
事故対策	<p>安心安全に過ごして頂ける様、コンセントの埃の除去、ナースコール・ベッドのブレーキの点検を定期的に行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリとした事例に対して報告書を提出し、情報の周知徹底を図り事故防止に繋げた。

紅葉ユニット

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者とのコミュニケーションを大切にし、日々の活気へと繋げられるよう個々のやりがいを見つけ、サポートをした。 ・ご家族との関わりを大切にし、面会時は日々の様子を伝え、信頼関係を深めた。 ・職員間や他部門との情報共有に努め、ケアの統一を図った。
食事	<ul style="list-style-type: none"> ・食事時間が楽しい時間となるよう食事席に配慮し、美味しく食して頂いた。 ・食事の様子を観察し、個々に合った食事形態や食事方法、食器の見直しを都度行なった。 ・ご本人の食事ペースに合わせて、無理なく安全に食事ができるよう、時間や量を調整し、介助を行なった。
排泄	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の状況に応じて、排泄時間や排泄用具を見直し、快適に過ごして頂けるように努めた。 ・排泄介助時は、プライバシーに配慮した声かけを行い、残存機能を活用し安心・安全な方法で介助を行なった。 ・排便後は換気を行い、臭いの除去に努めた
入浴	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりと快適な入浴時間となるよう、ご希望の湯温や時間を把握し対応した。 ・プライバシーに配慮しながら全身観察を行い、異常の早期発見に努めた。 ・湯船で拘縮部分のマッサージを行い、緩和に努めた
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・居室内の整理整頓、埃の除去に努め、清潔で過ごしやすい環境を作った。 ・好みの場所で、ゆっくりとくつろげる空間を作った。 ・安心、安全にして過して頂けるよう、個々のADLに合わせ家具の位置や手すりの検討を行なった。
衛生 健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ・食事前や排泄後には手洗い、消毒を行い、感染予防に努めた。 ・定期的に、爪切りや耳掃除、髭剃りを行い、清潔に過ごして頂いた。 ・脱水予防の為、無理なく水分摂取ができるよう、提供方法を工夫した。
レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・季節を感じて頂ける様、職員と共にフロア内を装飾し、気分転換を図って頂いた。 ・個々の誕生日には希望に応じたイベントを企画し、楽しんで頂いた。 ・ボランティア行事やレクリエーション、リハビリ体操への参加にて、他者との交流の場を設けた。
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に合った生活リハビリにて、残存機能が維持できるよう、意欲が湧く声かけを行なった。 ・散歩の機会を増やし、筋力低下を防いだ。 ・機能訓練指導員と情報を共有し、個々の状態に合った生活リハビリを検討、実施した。
事故対策	<ul style="list-style-type: none"> ・些細なこともヒヤリハット報告書を提出し、情報を周知し、事故防止に繋げた。 ・事故報告書やヒヤリハット報告書の要因、改善策について話し合い、再発防止に努めた。 ・ご家族面会時に、日頃の様子について報告し、情報を共有し信頼関係を深めた。事故があった時は速やかに報告し、対策について相談、承諾を得る。

桜ユニット

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の気持ちや希望を大切にし、自己表現できる環境を作った。 ・ご家族との関わりを大切にし、積極的に声かけをすることで話しやすい環境を整え、信頼関係を深めた。 ・その人らしい生活が継続できるようユニット職員で情報を共有している。 ・入居者と同じ目線で物事を考えるよう常に意識している。 ・職員間のコミュニケーションを図り、相談をしやすいチーム作りを行うよう心がけている。
食事	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の希望やADL、相性を考慮し、楽しくリラックスして食事ができる環境を整え設定した。定期的に座席の配置を検討した。 ・日々の咀嚼や嚥下状態を把握し、入居者に合わせたペースで食事介助を行った。
排泄	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーや自尊心に配慮した排泄介助を行えた。 ・個々に合った排泄時間、用具、方法を随時検討した。 ・排泄物の色や量を観察し、異常の早期発見に努めた。
入浴	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーに配慮し、リラックスして入浴できるよう、興味のある話題を提供した。 ・寒暖の差を防ぐ為、脱衣所の温度調整、移動時の保温等を徹底した。 ・入浴時は全身の皮膚状態を観察し異常の早期発見に努めた。
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に過ごせるよう、居室内の家具や手すりの配置をその都度検討し対応した。 ・ナースコール、ベッド、車椅子の不具合がないか定期的に点検し異常時は早急に対応した。 ・床やテーブル、椅子等の共有スペースの掃除も細目に行い、清潔を保持している。 ・コンセントや電気機器に埃や汚れがないか定期的にチェックし掃除している。
衛生 健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄後、食事前には手洗い消毒を実施し、感染予防に努めた。 ・定期的に爪切り、耳掃除を実施し清潔に過ごして頂いた。 ・離床後は整髪し衣服を整え、汚れがあれば速やかに着替えを行っている。
レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの興味のあるレクリエーションを抽出し、同じ趣味を持つ入居者同士で楽しめるよう企画するが、揃って出来る事が少ない。 ・ボランティア参加を積極的に促し、参加時は盛り上がるよう、職員が介入し一緒に楽しむようにした。 ・外出の機会がなかなか設けられなかった。
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリ体操、ラジオ体操、テレビ体操等、気軽に参加できる体操を実施し拘縮予防に努めている。朝のラジオ体操は入居者の日課となった。 ・風船バレーやボーリングをゆっくり実施する機会が少なかった。 ・機能訓練指導員と情報を共有し個々の希望する運動や個人に合ったリハビリを検討しその都度提供した。
事故対策	<ul style="list-style-type: none"> ・転倒、転落の危険性のある方に対しては、小まめにヒヤリハットを活用し、未然に防げるよう情報を共有した。 ・日々の些細な気づきを、職員同士で情報提供し話し合い、周知している。 ・事故報告書、ヒヤリハットの要因、対策について話し合い、意識を高めている。

銀杏ユニット

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者が、ご自身の趣味に取り組みやすいように家具の購入をしたり、居室配置を過ごしやすいようにその都度変更する等し、住み良い環境を作った。 ・ご家族が来所された際は、普段のご様子をお伝えし、入居者にとってどのようなケアが必要か職員、ご家族でお互いに相談し合うことで信頼関係を深めた。 ・職員の名前を覚えていただき、馴染みの職員がいつもと同じ安心できるケアを行えるようにした。
食事	<ul style="list-style-type: none"> ・歌や会話などで普段から嚥下力の低下を予防するように努めた。また、入居者にあつた食事量・食事のタイミングを守り、安全に食事ができるように努めた。 ・食事が楽しい時間となるように好みの席で食事をして頂き、席替えの希望があればその都度臨機応変に対応した。
排泄	<ul style="list-style-type: none"> ・水分摂取量の向上を計る為、個々の好みを把握し、バリエーションにとんだ飲み物の準備をし、摂取量の向上を図った。また、便秘傾向のある方に対して腹部を温め、マッサージを行う等し、できるだけ自然な排便ができるように努めた。 ・排泄時間を記録し、排泄パターンを把握・共有することで、失敗なくトイレで排泄が出来るようにした。 ・排泄時は必ず居室の扉を閉め、声掛けの仕方に注意し、プライバシーに配慮した介助をした。
入浴	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の好まれる話題を提供し、ゆっくりと会話を楽しみながら入浴していただいた。 ・入浴時は皮膚乾燥や、出来物がないか等観察し、異常の早期発見に努めた。 ・ADLの変化に合わせた介助方法を変更し、安全に入浴していただけた。
環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・季節のお花を飾り、明るい雰囲気になるようにテーブル等を飾り付け、明るい雰囲気をつくることのできた。しかし、フロアの設えは少し開けた空間となり、個々のくつろげる家庭的な空間とは言えない。今後はプライベートな空間作りをすることが課題である。 ・車椅子で移動される方が多く安全に移動できるように居室・フロアの家具の配置に注意し、広く動線の確保をした。 ・毎日のごみ集めの際にベッド周り、タンスの上の清掃をし、月に2回のナースコール点検時に全体的に汚れていないかのチェックをすることで快適に過ごして頂けた。
衛生 健康管理	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者のうがいは難しいが、手洗い・消毒を徹底し、媒介とならないように職員が嗽を行うことで感染を予防できた。 ・食欲の減退や、いつもされない言動等、些細なことでも変化があれば申し送りし合い、体調不良のサインを見逃さないように対応できた。 ・個々の病状を理解し、異常の発見時には速やかに他部門と連携を取り、適切な対応をとることができた。 ・衣類汚れがあれば速やかに着替えて頂き、爪切り・手洗いを細目に行うことで清潔感のある身だしなみを心がけた。
レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・春・秋の過ごしやすい気候の時期に外食や買い物等を企画し、外出を楽しんで頂いた。 ・ボランティアによるレクリエーションがある際は、職員をなるべく多く配置し、盛り上げ役に徹することでその場が楽しい場となるように努めた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・なるべく退屈されている時間が少なくなるように話題作りや声掛けに努めたが、入居者が退屈そうにされていることが多々あった。余暇時間が充実したものとなるよう工夫していくことが今後の課題である。
機能訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・体操の間は入居者が飽きることのないように、盛り上がるような声掛けを続けることで楽しんで体操に参加できた。 ・ADL や体形の変化があるごとに機能訓練指導員に相談することで、現状に合った生活リハビリを提供できた。
事故対策	<ul style="list-style-type: none"> ・転落・転倒の危険性がある方に対して、こまめにヒヤリハットを作成し、他ユニットとも情報を共有できた。 ・事故直後や、毎月のユニット会議で事故やヒヤリハットの要因について話し合い、改善策をその都度発信できた。 ・月に2回ナースコールの点検とコンセント周辺の埃の除去をすることで、機器の不備による事故や、火災の発生を未然に防ぐことができた。

(4) 食事・栄養

(1) 目標

- ①実演イベントやユニット別食事レクを実施し、調理する場面を間近で見ても楽しんでもらい出来立ての状態を提供できた。
- ②寿司や変わり御飯の日は個人の対応に合わせた（禁止、量、形態）提供をした。食事の意見を頂ける方には献立へ反映しているが全員ではないので今後も把握する為、意見をうかがいに行くよう努めていく。
- ③栄養改善委員会で他職種と利用者の状態把握、意見書や残食表を基に委託業者と食事の提供方法の検討が出来た。

(2) 計画

入居者は、なるべくフロアでユニットの皆さんと団欒して召し上がって頂くよう声掛けをし、誘導している。

また食事が負担にならないよう量や形態、食器の配慮を他部門、委託業者と検討し実施した。入居者の要望に合わせたおやつ等をご家族へ依頼し持ってきていただき生活の楽しみの一つとして頂いている。

①栄養ケアマネジメント

- ・毎月、栄養スクリーニング、アセスメント、モニタリングを行い、栄養ケア計画書を立案し、実行した。
- ・カンファレンスにより情報の共有、食事提供方法の検討を実施できた。また栄養ケア計画書に添ったモニタリングを担当職員と把握し、栄養ケア経過記録に入力した。また、今後も入居者の食事時間にフロアへ上がり、担当職員への聞き取りなども合わせて状態の把握に努める。

②食事方法

- ・食器は概ね陶器を使用した。ご本人の食事状況に合わせてワンプレートや割れない食器を使用するなど工夫した。またユニットではランチョンマットを敷き、茶碗、湯呑、お箸は家庭で使用していた物や個人に合う自助具等を使用した。陶器の食器について見た目は家庭的でいいが、現在のご利用者様のADLを考えると軽いプラスチックの食器の方が使いやすく良いのではないかとい

う意見もあり、変更を検討している。

- ・喫食時間はユニットへ行き、食事状況（食べにくさ、姿勢、嗜好）を把握し他職種と連携し残存機能維持に努めた。
- ・食事への楽しみのために各ユニット・デイサービスにて随時実演イベントや食事レクリエーションを実施した。食中毒の危険性が極めて少ない冬季には実演の握り寿司イベントを実施した（11月、3月）。2か月に1回のペースで郷土料理を提供できた。
- ・料理名の由来や行事食に使用している季節の食材についての栄養情報を作成し、配布して料理について興味をもっていただくよう実施できた。

③各種調査の実施

- ・検食…日々の食事についての安全性を把握するため実施できた。
- ・食事意見書（各ユニット、デイサービス、結いまる）、残食調査、嗜好調査を実施し、栄養改善委員会で参考資料に使用しそれを基に日々の献立に反映した。

④栄養改善委員会の開催

- ・毎月実施し各部門の職員、給食業務委託業者とともに開催した。
- ・今年度のヒヤリハットは、32件。1か月分を報告し、改善策について検討できた。
昨年度に引き続き事故報告の中で異物混入が12件と昨年度よりは減少しているが一番多く、委託業者側の異物混入への危機意識が必要だと考えられる。
- ・各種調査に基づき、献立や提供方法について報告・相談し入居者の食事提供について検討できた。
- ・給食業務委託業者の衛生課や保健所等の情報を基に委員会で食中毒への情報を発信した。
- ・行事食の案内、イベント食の計画・評価を行った。

④厨房における衛生管理の徹底

- ・大量調理マニュアル、給食業務委託業者の衛生マニュアルに従い衛生管理を実施した。
- ・害虫駆除は5月2日、11月7日、殺菌灯と換気扇のネットの交換は7月12日、1月18日に実施した。
- ・厨房内、厨房事務所、食品庫の整理・整頓の実施は給食業務委託業者に依頼している。昨年発生したグリストラップからの異臭問題は今年度の報告はなく、引き続き清掃状況（チェック表等）を確認しながら様子を見ていく。
- ・ノロウイルスの発生時期はアルコール消毒から次亜塩素酸ナトリウムで配膳車やワゴンを消毒した（11月1日から開始）。

⑥安全対策

- ・他職種の連携により入居者の口腔ケアを実施できた。
- ・職員は衛生管理、食材管理を徹底している。また、配膳前には必ず確認し提供している。
- ・食材の持参について入居者やご家族へ衛生面への理解を求めるためエレベーターに食材持参についての案内を掲示している。
- ・厨房業務での事故・ヒヤリハットは32件（内異物混入は12件）。
異物混入は髪の毛が4件あった。また、作業中に誤って混入したビニール手袋や、きのこ類の下処理時に誤って混入した石づきや石等注意をしていれば未然に防げるような異物混入も目立ったため、厨房業務に取り掛かる職員に再度注意喚起を行った。また、今後もヒヤリハット・事故は起こさないことが大前提であるので委託業者側と連携し未然に予防していく。

⑦非常食の対応

- ・飲料水、非常食を備蓄中、今年度災害は起こらなかった。

⑧行事食の充実

- ・毎月、朝ごはんに変わり粥の選択食の実施をしている。入居者のリクエストによる食事レクも実施した。
- ・4月27日、と10月21日に家族会を実施できた。
- ・実演において、目の前で調理した出来立ての食事に入居者も喜ばれている様子だった。握り寿司イベントは毎回好評で、次年度も2回程実施していきたいと感じる。また、随時各ユニットで食事レクリエーションも行った。
- ・3月にはセレクト食を実施しご利用者様一人ひとりに2種類の中から好みの料理を選んで召し上がっていただいた。デイサービスでは当日に選択していただき大変好評のお声が上がった。
5月には去年に引き続き三回目のサンドウィッチ提供を試みた。昨年度に引き続き、めずらしいメニューに喜ばれる方が多数おられたので、次年度も実施していく。
デイサービスでは4月にお好み焼きイベント、7月は手作りコロッケイベント、2月はたこ焼きイベント、3月は実演握り寿司イベントを実施しみなさんに喜んでいただけた。

平成30年 行事食一覧

4月	2日…花見弁当(松花堂弁当：いなり寿司, エビと空豆のかき揚げ, 菜の花のからし和え, 筍のお吸い物) 12日…お好み焼き(デイ) 16日…郷土料理(長野県：野沢菜とわかめのチャーハン, 山賊揚げ, 大平(おおびら)) 27日…変わり粥(鮭ぞうすい) 29日…家族会(かおり御飯, 和風弁当9品, すまし汁)
5月	5日…端午の節句(昼食：オムライス, 春野菜のサラダ, ミネストローネ おやつ：柏餅(キザミ以下はヨモギ団子)) 13日…母の日(赤飯, 天ぷら盛り合わせ, 茶わん蒸し, フルーツ) 16日…サンドウィッチ(卵サンド, メンチカツサンド, パンプキンサラダ, 具沢山ポトフ) 21日…お好み焼き(桔梗) 25日…変わり粥(さつま芋粥)
6月	4日…季節の献立(梅しらす大葉御飯、アジフライ、オクラと長芋のかつお生姜和え、味噌汁) 17日…父の日(スタミナ丼、青梗菜の中華炒め、わかめスープ、漬物) 19日…実演！お好み焼き(向日葵) 22日…変わり粥の日(きのこ雑炊) 27日…揚げたてコロッケイベント(デイ)
7月	7日…七夕(七夕そうめん、いなり寿司、茄子の揚げ浸し、甘酢生姜) 10日…郷土料理(沖縄県：タコライス、にんじんしりしり、もずくスープ) 16日…海の日(シーフード焼きそば、トマトとオクラの和え物、フルーツポンチ) 20日…土用の丑の日(鰻散らし、大根の和え物、赤だし、甘酢生姜) 25日…実演！お好み焼き(水仙) 27日…変わり粥の日(卵粥)
8月	1日…PLの花火(夕食：彩りサラダ寿司) 11日…山の日(夏野菜カレー、トマトときゅうりのサラダ、フルーツ) 15日…お盆(精進料理：そうめん、炊き込みご飯、野菜の天ぷら) 19日…夏祭り(おやつ：たこ焼き、フランクフルト) 24日…変わり粥(鮭ぞうすい) 24日…実演！お好み焼き(紅葉)
9月	9日…重陽の節句(栗ごはん、秋刀魚の香り焼き、錦糸和え、すまし汁)

	<p>13 日…実演！お好み焼き(桜)</p> <p>17 日…敬老の日(赤飯、天ぷら盛り合わせ、菊花和え、卵豆腐～茸あんかけ～、すまし汁) ⇒松花堂弁当で提供。</p> <p>23 日…秋分の日(きのこの炊き込みご飯、秋刀魚の幽庵焼き、南瓜のそばろ煮、けんちん汁)</p> <p>24 日…十五夜(おやつ：おはぎ、キザミ以下はよもぎ饅頭)</p> <p>28 日…変わり粥(さつま芋粥)</p>
10 月	<p>11 日…郷土料理(鹿児島県：温たまらん井、きいこん、呉汁、漬物)</p> <p>19 日…実演！お好み焼き(銀杏)</p> <p>21 日…家族会：松花堂弁当(ゆかりご飯、海老フライ、炊き合わせ、 鯖の西京焼き 添え：卵焼き、白和え)、冬瓜と湯葉のお吸い物)</p> <p>26 日…変わり粥(茶粥)</p> <p>31 日…ハロウィン(昼食：かぼちゃのドライカレー、コルカノン、フルーツ) (おやつ：手作りかぼちゃプリン)</p>
11 月	<p>7 日…立冬(デイ：すき焼き鍋イベント)</p> <p>11 日…鮭の日(鮭のクリームスパゲティ、温野菜サラダ、コンソメスープ)</p> <p>15 日…秋の行楽御膳(秋鮭と小松菜の混ぜご飯、蓮根入り鶏つくね、大学芋、けんちん汁)</p> <p>19 日…握り寿司イベント(2 階 3 ユニットで実施)</p> <p>23 日…変わり粥(ゆかり粥)</p>
12 月	<p>16 日…餅つき大会(おやつ：ぜんざい)</p> <p>21 日…変わり粥(きのこ雑炊)</p> <p>22 日…冬至(ちらし寿司、冬至南瓜、茶碗蒸し、甘酢生姜)</p> <p>24 日…クリスマスイブ(おやつ：クリスマスケーキ)</p> <p>25 日…クリスマス(昼食：エビピラフ、ミートローフ、コールスローサラダ、コーンクリームスープ)(おやつ：プリン・ア・ラ・モード)</p> <p>31 日…年越し(夕食：年越しそば、ゆかりご飯、フルーツ)</p>
1 月	<p>1 日…おせち料理(朝食・昼食のみ)←今年から 100 円/人の加算あり。</p> <p>3 日…変わり粥(かに雑炊)、三日とろろ(豚肉と白菜のとろろ蒸し～生姜あん～)</p> <p>7 日…七草粥(全員提供)</p> <p>15 日…小正月&鏡開き(昼食：赤飯、天ぷら盛り合わせ、茶わん蒸し、赤だし おやつ：おしるこ)</p> <p>25 日…郷土料理：新潟(御飯、たれカツ、芋味噌、鮭ののっぺい汁)</p>
2 月	<p>3 日…節分(太巻き寿司、鰯の梅煮、けんちん汁)</p> <p>11 日…建国記念日(赤飯、天ぷら盛り合わせ、茶わん蒸し、フルーツ(オレンジ))</p> <p>14 日…バレンタイン(おやつ：手作りチョコバナナロールケーキ)</p> <p>20 日…デイおやつレク(たこ焼き)</p> <p>22 日…変わり粥(芋粥)</p>
3 月	<p>3 日…ひな祭り(ひな寿司、菜の花のお浸し、すまし汁 おやつ：さくら団子)</p> <p>13 日…握り寿司イベント(3 階・デイ)</p> <p>21 日…春分の日(あさりの炊き込みご飯、春野菜の天ぷら、じゃがいもの胡麻煮、赤だし)</p> <p>22 日…変わり粥(卵粥)</p> <p>26 日…セレクト食(焼きうどん or きのこあんかけうどん)</p>

平成30年度 食事におけるヒヤリハット・事故報告書件数

発生状況			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	数量 間違い	食器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		食事	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	5
	配膳 ミス	場所	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
		形態	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	3
		禁止	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	4
	提供献立		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	味付け		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	異物混入		1	2	4	0	2	1	1	1	0	0	0	0	12
	その他		0	0	0	2	1	1	0	1	0	0	0	1	6
	合計		3	2	4	6	4	4	1	3	0	1	2	2	32
場所	桔梗		1	0	1	1	0	1	0	1	0	0	0	1	6
	向日葵		0	1	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	4
	水仙		0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
	紅葉		0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	桜		0	0	0	2	0	1	0	1	0	1	0	0	5
	銀杏		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	デイサービス		0	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	5
	結いまる		0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	1階職員休憩室		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他		1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3
	合計		3	2	4	6	4	4	1	3	0	1	2	2	32
時間	朝食		1	0	0	5	1	0	0	2	0	0	2	0	11
	昼食		1	2	1	0	1	3	1	1	0	1	0	1	12
	おやつ		0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	1	4
	夕食		1	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	5
	合計		3	2	4	6	4	4	1	3	0	1	2	2	32

(5) 健康管理・医療体制

1) ご家族や他部門職員と積極的に連携を図り、高齢者の特性を理解したうえで健康状態の把握に努め、体調変化の早期発見に繋げた。

①ケアカンファレンスなどで他部門と情報を共有し、高齢者の特性を理解した上で、施設で少しでも長く過ごして頂けるよう、ご家族とも連絡を密に取りながら援助した。

②認知症と言う背景もあり、状況の判断が非常に難しかったが、廻診時に健康状態を的確に報告し指示を受け、状態悪化を防ぐことが出来た。受診時は、医療機関との連携を図り、家族への対

応も行った。

③介護上必要と思われる入居者の状態を適時発信し、助言した。

夜勤への申し送りの際には助言を徹底し、夜間はオンコール対応とし、職員が安心して夜勤業務が出来るように努めた。

④血液、尿検査は年2回施行した。又状態の変化があった際には医師の指示のもと随時追加検査を行った。

⑤施錠できる薬剤庫にて管理した。介護職員には、入居者の内服している薬剤情報のファイルを提供した。

⑥インフルエンザの予防接種は、入居者・職員へ配置医師にて接種した。

肺炎球菌ワクチン予防接種は、今年度該当者へ近隣病院にて接種した。

入居者の胸部レントゲン撮影は施設にて撮影、精密検査の必要な症例は無かった。

2) 感染予防のため、必要に応じ蔓延防止のための対策を指導、実施する。

①今年度は、全国的に早期にインフルエンザが流行し、大流行となった。

感染対策委員と連携し感染防止対策を徹底していたが、平成30年末と平成31年2月に2階3階とそれぞれの階で発症があった。入居者及び職員の抗ウイルス剤の予防投与、公的機関との密な連絡、早急かつ的確な対応により、インフルエンザの蔓延を防止することが出来た。

スタンダードプリコーションの観点で業務における問題点を見だし指導支援した。

②感染の勉強会や、厚労省発信の感染に関する文書を提示し、正しい知識の習得と手順に沿った対応を指導した。

3) 職員が安全で心身ともに、より良い状態で働けるようにサポートする。

①5月は全職員、10月は当直職員の健康診断を実施し産業医による診断を受けた。各自に結果を報告し、衛生管理者と健康状態の把握に努めた。9月には全職員のストレス検査を実施。結果を各自に返却し相談窓口を設けた。

高齢者施設という生活の場における医療の位置・役割は多岐に渡っている。そのニーズに対し専門的視点から業務に携わり努めていきたいと考えている。

4) 『陽だまりの丘』における看取りの体制づくりに努める。

①ご家族と話を出来るだけ多く持ち、日々の様子を丁寧に説明し、向かい合ってもらえるよう働きかけた。

②出来る限り希望に添えるよう配置医師に状況を報告、相談しながら他部門とも連携し、入居者本人が主体という観点で、終末期を安心して安楽に過ごして頂けるよう支援した。

③終末期において多くの関わりを持つことで看取り時期に応じた状態の変化に対応した。終末期は日常ケアの延長線上にあるものと職員全員が認識できるよう働きかけた。

受診・入院 年度比較	受診数	入院数
平成26年度	491	21
平成27年度	412	34
平成28年度	543	34

平成 29 年度	363	22
平成 30 年度	415	12

平成 30 年度 病院受診状況

受診科	受診数	往診	受診科	受診数	往診
内科	64	0	神経内科	14	0
泌尿器科	69	0	皮膚科	9	0
眼科	2	77	循環器科	11	0
歯科	0	72	耳鼻科	6	0
外科	17	0	救命救急	5	0
脳神経外科	15	0	その他	6	0
精神科	12	0			
整形外科	36	0	合計	266	149

(6) 機能訓練

- 1) 本人の意向はその都度確認を行い、体調を考慮しながら行えた。ご家族の意向を伺えた時は計画書に反映させることができた。3 か月の更新は行えた。
- 2) 訓練前に介護職員より状態の報告を受け行う。進んで話をするにより心理面のケアを行った。環境面は危険個所の指摘や精神高揚につながるレイアウトの提案を行った。
- 3) 介護職員とは連携をこころがけた。また、バイタルを把握し食後・入浴後には無理のない機能訓練を行うように心がけた。

(7) 事故防止

- 1) 入居者の転倒や転落の事故を防止するために、環境整備、介護機器の点検と整備を徹底した。
- 2) 『事故・ヒヤリハット報告書』は速やかに報告書を作成し、職員全員が内容を把握できるように掲示した。また各ユニット、部門にて要因や改善策について検討した。

介護保険事業者事業報告 (平成 30 年 4 月 1～平成 31 年 3 月 31 日)

届出件数	6 件
内容	転倒による骨折 4 件
	転倒による打撲 1 件
	転倒による裂傷 1 件

事故・ヒヤリハット事例の集計、分析（特養）（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

＜月別報告件数＞

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
事故報告	21	13	23	22	12	30	14	17	20	13	18	16	219
ヒヤリハット	12	12	7	13	15	14	8	9	12	13	8	1	124
合計	33	25	30	35	27	44	22	26	32	26	26	17	343

＜時間帯別報告件数＞

時間	0～ 1:59	2～ 3:59	4～ 5:59	6～ 7:59	8～ 9:59	10～ 11:59	12～ 13:59	14～ 15:59	16～ 17:59	18～ 19:59	20～ 21:59	22～ 23:59	合計
事故報告	7	8	4	21	25	17	20	44	36	27	4	6	219
ヒヤリハット	2	3	3	17	8	11	20	18	11	14	7	10	124
合計	9	11	7	38	33	28	40	62	47	41	11	16	343

＜年度別報告件数・特養＞

	転倒	転落	座り 込み	薬関連	内出血	裂傷 表皮剥離	誤嚥	危険 行為	火傷	その他	合計
H.26年度事故	27	10	7	41	70	19	2	2	1	19	198
ヒヤリハット	73	27	0	23	4	11	1	5	0	20	164
H.27年度事故	44	17	24	45	25	24	1	1	2	17	200
ヒヤリハット	61	24	0	15	4	4	0	7	0	25	140
H28年度事故	70	29	29	45	16	26	3	1	0	18	237
ヒヤリハット	74	22	0	4	1	3	9	0	0	18	131
H.29年度事故	29	17	21	36	18	20	3	6	0	17	167
ヒヤリハット	57	11	5	2	1	1	10	1	0	31	119
H.30年度事故	33	16	26	24	65	35	2	0	0	18	219
ヒヤリハット	56	13	5	7	0	1	10	8	0	24	124

・ヒヤリハットの件数が事故の件数より少なく、事故に至るまでの気づきが乏しい。その時にヒヤリとしなかったからヒヤリハットをあげないのではなく、今後事故に繋がる可能性はないのかを考え、小さなことでもあげていくように認識を変えていく必要がある。

・ご自身で動かれる方が、転倒し大きなけがを負うことが例年より多かった。ご自身で動かれる方に対していままです事故はないからと安心せず、すべての方が事故に至る可能性を考えて見守りを行い、他ユニットとも連携を取り、事故を未然に防ぐ対応をすることが今後の課題である。

事故・ヒヤリハット事例の集計、分析（ショートステイ）（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

＜月別報告件数＞

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
事故報告	6	2	3	3	5	5	4	5	11	10	2	5	61
ヒヤリハット	4	4	1	1	5	3	7	6	3	1	1	11	47
合計	10	6	4	4	10	8	11	11	14	11	3	16	108

＜時間帯別報告件数＞

時間	0～ 1:59	2～ 3:59	4～ 5:59	6～ 7:59	8～ 9:59	10～ 11:59	12～ 13:59	14～ 15:59	16～ 17:59	18～ 19:59	20～ 21:59	22～ 23:59	合計
事故報告	1	1	2	1	12	8	10	4	13	2	4	3	61
ヒヤリハット	1	4	0	5	10	3	7	9	2	3	1	2	47
合計	2	5	2	6	22	11	17	13	15	5	5	5	108

＜年度別報告件数・ショートステイ＞

	転倒	転落	座り 込み	薬関連	内出血	裂傷 表皮剥離	誤嚥	危険 行為	火傷	その他	合計
H. 26 年度事故	2	4	1	15	2	1	0	0	0	1	26
ヒヤリハット	10	0	1	5	0	0	0	0	20	13	49
H. 27 年度事故	11	3	4	10	2	2	0	1	0	5	38
ヒヤリハット	36	0	0	1	0	0	1	0	0	8	46
H. 28 年度事故	17	2	5	14	2	2	0	0	0	11	53
ヒヤリハット	20	1	0	3	0	0	2	0	0	8	34
H. 29 年度事故	13	5	9	19	3	2	0	4	0	6	61
ヒヤリハット	15	0	0	1	0	0	5	3	0	6	30
H. 30 年度事故	15	5	6	17	1	2	2	0	0	13	61
ヒヤリハット	20	2	0	2	0	0	2	6	0	15	47

・今後もヒヤリハットの件数より、事故の件数の方が多かった。また、市役所に報告する事故が 3 件あった。転倒・転落・座り込みの事故が多く、来年度も些細なことにもヒヤリハットをあげ、事故の数を減らしていく。

事故・ヒヤリハット事例の集計、分析（デイサービス）（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

＜月別報告件数＞

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
事故報告	1	4	3	3	1	1	2	1	5	0	4	3	30
ヒヤリハット	0	3	2	5	2	4	3	4	6	3	5	3	40
合計	1	8	5	8	3	5	5	5	12	3	9	6	70

<時間帯別報告件数>

時間	0～ 1:59	2～ 3:59	4～ 5:59	6～ 7:59	8～ 9:59	10～ 11:59	12～ 13:59	14～ 15:59	16～ 17:59	18～ 19:59	20～ 21:59	22～ 23:59	合計
事故					3	6	1	9	11				30
ヒヤリハット					7	6	5	11	11				40
合計					10	12	6	20	22				70

<年度別報告件数・デイスサービス>

	転倒	転落	座り 込み	薬関連	内出血	裂傷 表皮剥離	誤嚥	危険 行為	火傷	その他	合計
H. 26 年度事故	4	1	0	0	0	4	0	0	1	2	12
ヒヤリハット	14	0	0	0	1	0	0	0	7	19	41
H. 27 年度事故	8	1	1	5	5	0	2	6	0	4	32
ヒヤリハット	15	2	0	0	2	1	0	7	0	9	36
H. 28 年度事故	16	0	1	1	0	1	1	4	0	5	29
ヒヤリハット	30	2	0	1	0	0	2	5	0	11	51
H. 29 年度事故	9	1	3	1	3	4	2	0	0	2	25
ヒヤリハット	41	0	0	0	2	0	7	1	1	21	73
H. 30 年度事故	9	1	2	0	2	8	0	0	0	8	30
ヒヤリハット	14	2	0	1	1	1	0	6	0	15	40

・今年は、転倒事故が多く、時間帯では昼食前と帰宅前が特に多く発生している。いずれも、トイレ誘導時や上着を取りに行こうとされるときに発生している。歩行が不安定なご利用者には付き添いを行っており、これからも歩行状態の情報交換を職員間で今まで以上行っていく。

(8) 年間行事

(1) 季節行事

新年会はインフルエンザ流行により実施できなかったが、それ以外の行事は実施する事ができた。

(2) 誕生日はその方の特別な日となるようにお祝いする。

各ユニットで、個人に合った誕生日を企画・実施できた。

(3) おやつ作りや折紙、塗り絵などのレクリエーションに参加して頂く。

各ユニットでおやつ作りを企画・実施し、折り紙や塗り絵などのレクリエーションにも参加して頂けた。

2) 活動スケジュール

行事名	月日	内 容	入居者 利用者
お花見	3 月末 ～4 月初	天候に恵まれ、桜に酔いしれる入居者から、施設から眺める桜が楽しみだと笑顔をいただきました。	29 名

外出	4月～ 翌年3月	ドライブやお寿司を食べにいたり、ご希望の外出ができた。	希望者
家族会	4/29	出張デパートを開催し、ご家族の方とショッピングを楽しんでいただいた。	60名 (ご家族 75名)
夏祭り	8/19	盆踊りのボランティアの方に来ていただくことで、踊りを見て楽しめる方、一緒に踊られる方などお祭りの雰囲気を感じていただけた。	41名
PL 花火	8/1	花火を鑑賞された方は、完成をあげたり、拍手をされたりして喜ばれていた。	51名
敬老祝賀会	9/16	職員の出し物の準備不足など反省点が残るが、大きなトラブルもなく、全体の流れはスムーズに行えた。	58名
家族会	10/21	昼食にご希望の方に三味線演奏を楽しんでいただきました。	60名 (ご家族 69名)
クリスマス会	12/24	クリスマスの音楽を流したり、歌を歌ったりして雰囲気を楽しまれ、またプレゼントも喜ばれていた。	60名
餅つき	12/16	出来上がったおもちを、手早く丸めて下さった。懐かしい話に楽しんでいただけた。	60名
新年会	1/1 中止	今年度は、インフルエンザの流行の為中止となった。	
節分	2/3	入居者の方々が、笑顔で楽しまれていたと意見が多く、節分の雰囲気を感じていただけた。	54名
ひな祭り	3/3	ひな人形を各階に飾り、日本の伝統的な行事を楽しんでいただけた。	50名

9月に83名実施。結果について面接希望者はなかった。

(6) ストレスチェックの実施

4. 衛生管理

(1) 職場巡視

1) 産業医による職場巡視を月1回実施した。

2) 衛生管理者による職場巡視を週1回実施した。

①職場巡視の点検項目を基本に、作業環境や不衛生になりがちな汚物室や水回りを重点的に巡視した。

(2) 衛生委員会の開催

- 1) 月 1 回開催したが 8 月と 12 月は職場巡視のみ実施した。
- 2) 職場巡視における問題点や健康管理報告による職員の健康状態について相談、助言をいただいた。
- (3) 施設内研修
平成 30 年 12 月「睡眠について」(株)東洋羽毛によりセミナーを実施していただいた。
- (4) 職員の健康相談
各部門と連携をとりながら職員の健康管理に取り組んだ。
- (5) 職員健康診断の実施
 - 1) 5 月は全職員 81 名、10 月は夜勤、当直者のみ 32 名の健康診断を実施し結果および産業医の見解を通知した。
 - 2) 8 名の入職時健診をみてもらう。
- ①感染症検査の不備 1 名と胸部レントゲンにて 1 名、要精密検査の指示があった。

5. リスクマネジメント

- (1) ヒヤリハット報告・事故事例を活用し、危機意識の向上となるよう取り組みを行った。
- (2) 対人事故として接触事故 1 件あり、迅速に対策を検討し翌日より実施した。
- (3) 計画した施設内訓練を確実に実施し、また近隣自治会の訓練等に参加し、職員の知識の向上・レベルアップを図ることができた。
- (4) 30 年度は大きな事故・トラブルはありませんでしたが、感染・火災・地震等予測を想定し、発生時に迅速に対応できるよう、現状の施設緊急時組織体制を見直し職員への周知を図った。
- (5) 研修委員と連携し、年 2 回のリスクマネジメント研修を実施した。

6. 苦情解決

ご要望やご意見は謙虚に受けとめ、傾聴し双方のコミュニケーションの場と捉える。ご意見はサービスの質の向上のための貴重な情報源として業務改善に繋げた。

- (1) 大阪狭山市の介護相談員の継続的な訪問により利用者、ご家族のご意見・ご要望を伝えていただけた。また介護相談員からの助言を施設として出来ること出来ないことを見極め、施設サービスの向上に繋げた。
- (2) 苦情解決委員会の開催
 - 1) 毎月 1 回、苦情解決委員会を開催した。解決困難な苦情発生は無く、緊急に開催することはなかった。
 - 2) ご意見箱、口頭でのご意見、ご要望内容の把握、確認を行った。苦情解決の手順に沿って対応し、改善策を検討した。
- 3) 苦情報告書の改善策のモニタリング
改善策の成果をモニタリングした。苦情申し出者にも成果をお聞きした。
- (3) 第 3 者委員の参加
苦情解決委員会開催の際には第 3 者委員に参加していただきご意見を伺った。
- 1) 職員への公表、改善策の周知徹底
検討された内容については、段階を経て職員に公表し改善策を実施した。

2) マニュアル、手順書の見直し

マニュアル、手順を見直した。

(4) 職員の研修

1) 苦情解決に向けて施設外研修に参加した。

2) 研修委員と連携し、年2回のリスクマネジメント研修を実施した。

発生件数

	ケア内容	接遇	食事	その他	合計
特養	3	0	0	2	5
ショートステイ	0	0	0	0	0
デイサービス	2	2	0	1	5
合計	5	2	0	3	10

7. 防災安全対策

- (1) 平成30年9月20日 地震火災想定避難訓練を実施
平成31年3月21日 地震火災想定避難訓練を予定
- (2) 平成30年11月24日 大野台地域防災訓練の参加
平成30年10月23日、24日 甲種防火管理者講習参加
平成30年10月3日 AED講習会を開催
平成30年5月28日 高齢者介護施設での大規模災害大対策参加
- (3) マニュアルを遵守し訓練を実施する。
- (4) 防災委員が、持ち場の監視員となり訓練を実施する。
- (5) 主な防災対策
 - 1) 上に記載
 - 2) 防災用飲料水をキリンから提供
 - 3) 上に記載
 - 4) 平成30年7月2日及び平成31年1月31日に
消防設備点検の実施済

8. 設備管理計画

- (1) 各種点検表に基づき、日常点検・定期点検を実施し記録を行う。
- (2) 各種業者による法定点検を実施し、記録を保存する。
- (3) 浴室の水質検査・塩素消毒等を実施し感染防止に努める。
- (4) 車両の出発前点検及び職員による定期点検を行い故障による事故を未然に防ぐ。
- (5) 経年劣化による修理や設備の交換に対処するため、事前にそれを予測し対処できるよう予算を組む。

- ・床ワックス 平成 30 年 10 月 26 日～10 月 28 日実施
- ・施設前駐車場グレーチング取替工事費 平成 30 年 10 月 13 日～10 月 16 日実施
- ・緊急警報受信機バッテリー交換 平成 31 年 2 月 2 日に交換
- ・福祉機器の整備（JKA への助成申請） 未実施来期に持ち越し
- ・勤怠管理システムの導入前調査及び導入検証実施、平成 31 年度より導入予定。
- ・ボイラー着火不良に伴う部品の交換 平成 30 年 7 月 11 日点検するも異常見られず。
- ・ネットワーク機器の更新及びセキュリティ機器の導入 一部完了する。セキュリティ機器は来季検討予定。
- ・ネットワーク機器の更新未実施。セキュリティソフト導入完了。
- ・施設内排水管の清掃 未実施来期に持ち越し
- ・福祉車両の整備（日本財団または JKA への助成申請） 未実施来期に持ち越し
- ・屋上防水簡易修繕 未実施来期へ持ち越し
- ・施設前駐車場アスファルト 未実施来期に持ち越し
- ・LED 取替工事 時期 11 月 未実施来期に持ち越し
- ・パソコン交換費 8 台分（ユニット 6 台及び事務所 2 台） 未実施来期に持ち越し

項目	実施日	結果
建築設備定期検査	12 月	異常なし
エレベーター設備	遠隔リモート点検(毎月実施) 現地点検 4/4 5/23 7/24 10/25 11/22 1/30 2/25	
ダムウェーター設備	現地点検 4/4 7/24 10/25 1/30 4/3	2/6 安全対策部品交換
高圧電気設備	4/13、6/8、8/8、10/11、12/7、2/9	異常なし
消防設備	7/2、1/31	異常あり。非常ボタンと 119 番への自動発信装置に不備あり。11/12 取付工事済
受水槽清掃	2/25	異常なし
水質検査 16・12・11	16 項目 9/28, 12 項目 9/28, 11 項目 2/6	異常なし
水質検査 (レジオネラ菌)	5/2、9/28	異常なし
害虫駆除・防除管理	5/2, 11/7	異常なし
グリストラップ清掃	6/12, 12	異常なし
屋外排水管洗浄	12/	異常なし
汚水槽清掃	6/12, 12/	異常なし
貯湯槽清掃	12/	異常なし
浴室ろ過機装置設備	6/9、11/21	異常なし
給湯器ボイラー設備	7/12、11/20	
厨房設備 (食器消毒保管庫・ガス ブースター・食器洗浄機)	4/11、9/27、10/18、3/12	
屋上室外機	年間 4 回程度実施	異常なし
室内エアコン	随時	6/11 基盤交換

		8/23 ワックス弁交換 9/18 台風により、室外機が倒れ 6 台修理（修理費は火災保険使用） 9/28 基盤交換 11/12 ワックス弁交換 2 台 11/12 基盤交換 11/30 リモコン交換 12/26 コントローラー交換
消火器・消火栓	7/2 1/31	異常なし
屋上	週 1 回程度実施	異常なし
ベランダ	週 1 回程度実施	異常なし
建物周囲	随時	異常なし
送迎車両	法定点検・車検／随時 月次点検／毎月（各担当者にて実施済み）	4/30 ワゴン R ギアボックス交換 7/28 ハイエースキー交換 8/29 ワゴン R シャフト交換 9/22 ワゴン R シャフト交換 11/3 ワゴン R ブレーキパッド交換
ナースコール	各ユニットにて実施	
洗濯機・乾燥機	随時	都度不具合手直し
車イス	各ユニットにて実施	異常なし
換気扇	随時	医務トイレ換気扇交換済
業務用洗濯機・乾燥機		都度消耗品交換 異常なし
（その他 不具合・補修対応） ・非常用誘導灯バッテリー交換 ・自動水栓交換、職員用出入口扉修理、ガスヒーポン修理・室内エアコン修理 ・車椅子、ベッド修理		車両
		走行距離
		ハイエース
		87,803km
		ハイゼット
		114,707km
		カーゴ
		79,710Km
		ワゴン R
		101,872km
		セレナ
		10,950km
		ワゴン R 2
		11,748km

9. 地域活動

- （１）近隣の行事や地車祭りの見学など、入居者の希望に沿えるよう配慮して積極的に参加していた。
- （２）ご家族の方からの紹介や社会福祉協議会に問い合わせるなどして、新しいボランティアを受け、主定期でありながら交流を深めることができた。
- （３）福祉避難所としての指定や防災協定について理解を深め、非常災害時には責任を持って貢献し、

地域との協力体制や信頼関係の構築を目指した。

- (4) 7月に地域の園児たちとの触れ合いや、秋には福祉学習として近隣の小学校との交流を図った。
また、介護体験実習の受け入れの態勢づくりを整えた。

10. ご家族との交流

- (1) 面会時には、笑顔でお迎えし、各部門でコミュニケーションを深めることができた。
(2) 日々の生活や行事、家族会に参加していただき、入居者、ご家族共に楽しんでいただくように心がけた。
(3) “陽だまりだより”を年4回発行し、様子が分かるように努めた。しかしブログの更新が昨年に比べて減少したため、出来る限り情報発信を行う。

11. 個人情報の保護

- (1) 特定個人情報の取り扱いに関する基本方針を定め、「特定個人情報取り扱い規程」を策定し、漏洩時の対応には、総責任者による原因追究など対策を徹底した。
(2) 利用目的を揭示及び契約書等へ明記し、入居者・ご家族の理解をえた。
(3) 職員採用時には、守秘義務契約書等の提出を義務づけ、漏洩防止につとめた。
(4) 個人情報保護や特定個人情報に関する施設内外の研修会への参加を促し、意識向上に努めた。

12. 会議・委員会・ミーティング・担当

委員会	開催日	主な内容
運営会議	第2火曜日	・施設運営に関する重点課題・問題解決
入居選考委員会	第1金曜日	・入所待機者の情報交換 ・入所選考指針に基づいた入所者選考の実施
苦情解決委員会	第2火曜日	・解決困難事例は無かった。 ・定時開催の委員会にて対応の検討・見直しを行った。また、全職員に発信する内容があった際には委員会より発信をした。 ・毎月、第三者委員の参加があった。 ・職員への公表、改善策の周知徹底を行った。 ・マニュアルの更新を行った。
安全対策委員会	第3火曜日	・必要時に応じて緊急安全対策委員会を開催した。 ・事故・ヒヤリハット報告書の集計・分析を行い、それを毎月の安全対策会議内で話し合い、内容を把握した。 ・再発防止策の検討・策定と成果のモニタリングを行い議事録に残した。 ・機器・設備の点検と検討した。 ・危機管理の意識や「質の向上」に向けた職員への勉強会を年度中に2回開催した。 ・指針、マニュアルの作成と見直しを行った。

		<ul style="list-style-type: none"> ・危険予知を収集し、事故防止策を発信した。
感染予防対策委員会	第2月曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・感染標語（全手洗い場に掲示中）を新しく変更し、意識付けの強化を図った。 ・冬季感染症流行期には、大阪府感染症情報センターのデータターを掲示（毎週更新）し、感染症に対する関心、意識の向上に努めた。 ・特養とデイサービスでのインフルエンザ発生に伴い必要に応じ緊急の感染委員会を開催しその都度対応を協議し職員へ発信、蔓延防止に努めた。 ・インフルエンザ発生後振り返りを行い、感染予防対策についての知識の定着に努めた。 ・インフルエンザ発生時の対応を評価しインフルエンザに関するお知らせや各種手順、マニュアルの修正を行った。 ・厚生労働省の通達に基づきレジオネラ菌予防対策マニュアルの修正を行った。 ・勉強会を計画、実施した（6月食中毒、11月インフルエンザとノロウイルスの対処法）。 感染に関する研修会へ個別に参加を行った。
身体拘束廃止委員会	第2月曜日 （偶数月）	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束は行わないことを周知し、見守り不可の方にはセンサーコールを使用し安全確認をした。 ・身体拘束を要するときの手順を把握し周知した。 ・精神的虐待についても理解し、議事録で発信した。職員間で注意しあえた。 ・外部研修に参加し、施設内の勉強会にて報告した。
褥瘡予防委員会	第2月曜日 （奇数月）	<ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月ごとに立案・実施・評価した。褥瘡計画書の書式を変更し、パソコン入力可能とした。評価は手書き記入となる。 ・日々の記録や、会議にてリスクの高い方の情報を共有し、対応策を周知し褥瘡予防につなげることができた。 ・皮膚に異常のある方について、此処に応じた対応を早期に行うことで褥瘡予防に努めた。
栄養改善委員会	第4月曜日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 季節を感じるような行事食の提供や、ユニット職員と連携しながらイベント食を開催し評価できた。 2. ハーフ食提供者の体重、アルブミン値の増減、日頃の食事状況の報告をし、継続するか検討ができた。また、新入居者や食事について検討が必要な方に対して提供方法や内

		<p>容について情報を報告することで今後の食事提供について検討ができた。</p> <p>3. ヒヤリハット件数は 32 件、その中でも異物混入が 12 件で、主に毛髪や作業に使用する手袋の切れ端やきのこの石づき等の初歩的な異物混入が発生したことから給食業務委託業者の意識改革の為にも、ヒヤリハットに対する改善策を話し合い、厨房職員全体が周知できるよう内容を回覧した。異物混入の件数は昨年度よりは減少したが、さほど変化がなく調理作業従事者全員の意識や注意が必要である。また、引き続き下処理から盛り付け時までの目視確認や配膳前の確認を徹底し事故を未然に防ぐよう努める。</p> <p>4. ユニットからの意見・残食調査・検食簿等から施設全体の傾向を見る事ができ、料理一つ一つに対する検討(味付けや量・固さ等)ができた。しかし、肉類の固さについては現在委託業者側と話し合いを行っている段階で未だに改善できていない。引き続き改善方法を検討していく。</p> <p>5. 食中毒の時期は厨房での対応や食中毒に関する情報提供、体調不良の方を報告し発生予防に努めた。また、小バエの発生に伴い未然に対処法について話し合い実行できた。</p>
レク・行事委員会	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者の ADL の低下があり、行事への参加も難しくなっている。(餅つき、外出など) <p>各ユニットや、行事担当者が入居者の ADL に合わせて企画の立案と実施が出来た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年の振り返り（アンケート）を参考に企画の立案が出来た。 ・行事開催後は、振り返りと課題の抽出が出来た。
研修担当	第 3 水曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内研修の立案・研修内容、実施時間、実施場所の検討 ・研修内容の振り返りと見直しと確認 ・研修不参加職員への研修内容の周知
広報担当	第 1 水曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの修正と更新 ・広報紙の作成と発行
防災対策委員会	第 2 金曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な防災対策研修と非難訓練の実施 ・防災マニュアルの見直し・更新 ・地域との防災協定の締結 ・定期的な防災対策研修と非難訓練の実施 ・備蓄品の管理
衛生委員会	第 3 火曜日	<ul style="list-style-type: none"> ・職場巡視指摘事項、問題点を検討 ・職員の健康障害を防止するための対策を検討 ・職員の健康の保持増進を図るための対策の検討

		・労働災害の要因となる事項の検討、改善
ユニットリーダー ミーティング	第1火曜日	・業務の見直し、実施方法の検討と決定 ・各委員会、会議、部門との連携 ・職員教育、指導方法の検討
ユニットミーティング	随時	・個別ケアの確認、見直し、周知 ・事故・ヒヤリハット報告書の要因、改善策の検討 ・ユニット業務の見直し、検討 ・ユニット行事の企画 ・ユニットの目標の立案と評価 ・ユニットリーダー会議からの報告
相談員会議	第2月曜日	・利用状況実績、予定の報告をした。予定は達成した。 ・稼働率向上対策を立案し実施した。立案通りできた。
看取り委員会	随時	日頃より思いを傾聴し、信頼関係の構築に努めた。又、望む暮らしを継続して頂ける様、笑顔かつ親切に対応した。 ・ご入居者の意思及び人格を尊重し、出来限り施設での生活を継続して頂ける様、異常の早期発見に努めた。 ・終末期の入居者のカンファレンスを実施し議事録も作成した。必要、適切な情報をもとに他職種と連携し、理解が得られるようご本人、ご家族に丁寧に説明できた。 ・体調不良で入院された場合も、病院担当者と情報交換を行い、ご本人、ご家族のサポートを継続した。 ・看取り介護の体制構築に努め、マニュアルを適時見直を行った。 ・陽だまりの丘としての看取りケア実施に向けて検討した。
ケアカンファレンス	随時	ケアプラン更新、変更、問題が生じた際は、各担当者を招集し速やかに会議を開催した。 ・ご本人、ご家族にケアカンファレンスへの参加を打診した。参加困難な時は事前にご要望確認を行なった。 ・新しいケアプランを各部署に配布し、情報を共有した。経過についても連携し把握した。

13. 研修

(1) 施設内研修

一年間計画に沿って、施設内研修を実施した。外部からの講師を依頼したり、各ユニットの取り組みの発表など、新しい形の研修会を設け、職員が興味を持って参加できるよう努めた。人員不足により研修が出来ないこともあったが、資料を配布し内容を理解できるように努めた。しかし、勤務や人員の不足も影響し研修参加者は減ってきている状況であるため、今後も委員会で様々な工夫を考え、参加者増加を目指していかなければならない。

(2) 施設外研修

職員それぞれのスキルに応じて、必要な研修を選抜し受講してもらうことができた。また研修に応募したが、定員オーバーや抽選などで不決定も多く、参加できなかった。来年度は、偏りなく幅広くまた多くの職員に参加できるよう努める。

施設内研修報告（別表１）

月/日	研修名	担当講師	参加人数 (講師除く)
4/18	施設の基本理念・接遇	施設長	15 名
5/16	救命救急法	防災委員会	11 名
5/23	介護職員の倫理研修・法令遵守コンプライアンス	事務職員	16 名
6/20	感染予防・食中毒予防	感染予防委員・管理栄養士	9 名
7/18	褥瘡予防対策・機能訓練	機能訓練指導員	12 名
7/25	身体拘束・虐待防止対策・人権	身体拘束禁止委員	9 名
8/22	リスクマネジメント・緊急時の対応	安全対策委員	6 名
9/20	避難訓練・運搬避難	防災対策委員	16 名
9/26	介護職員に必要な医療知識	看護職員	10 名
10/17	認知症ケア	桜ユニットリーダー	8 名
11/14	インフルエンザとノロウイルスの対処法	感染予防委員	12 名
11/21	ユニットケア/看取り介護	银杏ユニットリーダー	7 名
12/19	職員の健康管理	外部講師（東洋羽毛工業）	10 名
1/23	個人情報保護・マイナンバー制度	副施設長	7 名
3/11	リスクマネジメント	安全対策委員	9 名
3/20	非常災害時の対策と訓練装具	防災対策委員	11 名

(別表２) 施設外研修 参加一覧

No	研修日	研修名	主催	参加者職種
1	4/27	富田林保健所管内特定給食研究会	社会医療法人さくら会	管理栄養士
2	4/27	大阪民間共済会会計実務研修会	大阪民間社会福祉事業従事者共済会	副施設長
3	4/23	認知症研修	(公財) 介護労働安定センター	介護職員 (2 名)
4	6/5. 12. 14. 18. 22. 26	認知症介護実践研修	社会福祉法人 聖徳会	介護職員
5	6/6. 12. 18	福祉職員研修『中堅職員』	大阪府社会福祉協議会	介護職員
6	6/14	メンタルヘルス対策セミナー	堺商工会議所	施設長

7	6/7. 26	労務事務講習会	大阪府社会保険協会	副施設長
8	6/19	社会保険事務説明会	大阪府社会保険協会	副施設長
9	5/11	指定居宅サービス事業者集団指導	南河内広域事務所	生活相談員
10	6/14	高齢者福祉施設における身体拘束・虐待防止	近畿老人福祉施設協議会	介護職員
11	6/4	感染症・食中毒予防対策講習会	大阪府社会福祉協議会	管理栄養士
12	5/16	大調理ができる介護職セミナー	ホシザキ京阪	管理栄養士
13	5/28	高齢者介護施設での大規模災害対策講座	フォックスブルー（株）	防災委員
14	5/31	労務事務講習会	大阪府社会保険協会	副施設長
15	4/26. 5/18. 26	コミュニケーションソーシャルワーカー養成研修会	大阪府社会福祉協議会	生活相談員
16	6/1	最近の食中毒の事例について	富田林保健所	管理栄養士
17	6/7. 19	労務事務講習会	大阪府社会保険協会	副施設長
18	6/12	平成 30 年度介護保険施設集団指導	大阪府福祉部	施設長・副施設長
19	6/22	大阪府施設等指導監査合同説明会	南河内広域事務室	施設長
20	7/11. 12. 13	ユニットケア施設管理者研修	日本ユニットケア推進センター	施設長
21	7/3～6	民間社会福祉施設職員合宿研修会	社会福祉振興・試験センター	介護職員
22	7/10. 20. 30	キャリアパス対応生涯研修課程『チームリーダー編』	大阪府社会福祉協議会	介護職員
23	9/25	大阪府認知症介護基礎研修	大阪府福祉部高齢介護室	介護職員
24	9/20	HIV/エイズの基礎知識と施設の受け入れについて	大阪府医療部	看護職員
25	10/24	特定給食後援会 I	公益社団法人大阪府栄養士会	管理栄養士
26	10/23. 24	防火管理講習	堺市消防局	防災委員
27	10/25	介護用品店	ブティックス（株）	事務職員
28	10/23	対人援助技術	大阪府介護情報研修センター	介護職員

24	11/15	感染症予防対策	福祉と人権の研修ネットワーク	事務職員
25	12/6. 13. 21	キャリアパス対応生涯研修課程	福祉と人権の研修ネットワーク	介護職員
26	11/27	お困りごと解決！合同セミナー	社会福祉法人の未戦略研究会	副施設長
27	11/28. 30. 12/7	労務事務講習会	大阪府社会保険協会	副施設長
28	12/13	HACCP の義務化の動向と運用	富田林保健所	管理栄養士
29	H31. 1/19	ポリファーマシー介護の現場から	大阪狭山市薬剤師会	施設長
30	2/7	労務事務講習会	大阪府社会保険協会	副施設長
31	2/12	高齢者虐待防止研修	大阪府福祉部高齢介護室	事務職員
32	3/12	働き方改革セミナー	ハローワーク	副施設長
33	3/8	事業所のメンタルヘルス推進会	大阪府労働事務所	施設長

14. 事務・管理

管理部門

(1) 目標

人事・労務・経理・総務の業務において各担当を中心に適正な業務を執行することができた。

(2) 活動計画

1) 収支・経営状況の把握と分析

月次の収支バランスを把握することで、予算に準じた適正な施設運営を努めることができた。

2) 経費削減

①LED導入に向けて議論を重ねるも、補助金とのタイミングが合わず期中には導入に至らなかった。平成31年度導入に向けて引き続き調整を行う。

②電力会社変更により経費を約150万円削減。今後も定期的に見直しを行うことで、経費削減に努める。

③デマンドシステム等を利用することで職員一人ひとりが経費削減の意識を持つことができ、水道光熱費の経費節減に繋げることができた。

3) 業務の効率化

①職員一人ひとりが業務の効率化を考え、業務改善に取り組んだ結果、不必要な業務の簡素化を図り、残業を255時間減らし約38万円の人件費の削減に繋げることができた。

②りそな決済サービスの導入により、集金業務の大幅な削減および紛失等のリスク軽減に繋げることができた。

③各担当を中心に担当不在時にも業務が滞らない仕組みづくりを1年間取り組み、フォローし合える体制づくりの基盤をつくることができた。

4) 福利厚生の実施

運営会議にて新たな特別休暇の導入、各部門職員の休憩場所の実施について議論を重ねるも施

策が決まらなかったもので、職員の働きやすい環境づくりを来年度の課題として持ち越し、早急に導入できるように継続して検討する。

資料 年間利用状況

【入所者数】（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

年月	日数	入 所		短期入所		ベッド稼働率
		延入所者数	平均入所者数	延利用者数	平均利用者数	
H30.4	30	1497	49.9	298	9.9	99.6
5	31	1533	49.5	313	10.0	99.1
6	30	1473	49.1	302	10.0	98.5
7	31	1550	50.0	313	10.0	100.0
8	31	1550	50.0	315	10.1	100.1
9	30	1500	50.0	303	10.1	100.1
10	31	1528	49.3	313	10.0	98.8
11	30	1415	47.2	304	10.1	95.5
12	31	1441	46.5	307	9.9	94.0
H31.1	31	1469	47.4	284	9.1	94.1
2	28	1338	47.8	249	8.8	94.3
3	31	1547	49.9	311	10.0	99.8
合計	365	17858	48.9	3612	9.8	97.8

【年齢別状況】（平成31年3月31日現在）

年齢(歳)	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	平均
男	0	0	0	1	1	1	1	1	0	87.2
女	0	0	1	4	8	11	15	5	1	87.8
合計	0	0	1	5	9	12	16	6	1	87.5

【介護度状況】（平成31年3月31日現在）

介護度	1	2	3	4	5	合計	平均
-----	---	---	---	---	---	----	----

男	0	0	0	1	4	5	4.8
女	0	4	10	14	17	45	3.9
合計	0	4	10	20	21	50	4.3

【入居・退居者数】（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入居	男	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	1	5
	合計	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	0	1	6
退居	男	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
	女	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	3
	合計	0	0	1	0	0	0	0	3	1	1	0	0	6

【面会・外泊・外出状況】（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
面会者		385	385	411	398	416	403	417	384	330	296	217	344	4386
外泊	人数	3	1	1	1	0	1	1	1	0	3	0	0	12
	述べ日数	6	2	2	2	0	2	3	2	0	7	0	0	26
外出者		24	20	18	15	20	20	26	20	17	12	7	12	211

【ボランティア来訪回数】（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

	ボランティア名	来訪日	来訪合計回数	ボランティア名	来訪日	来訪合計回数
特養	傾聴	月2回	20	夏祭り	年1回	1
	童謡	月1回	10	餅つき	年1回	1
	音楽療法	月1回	10	ハンドマッサージ	単発	1
	ハーモニカ	月1回	10	由遊会（踊り）	単発	3
	カラオケ	月1回	10	喫茶	不定期	5
				合計	71	
通所部門	ドーナツ隊	月1回	3	手話コーラス	2月1回	5
	三味友の会	2月1回	5	歌	月1回	10
	書道	月1回	8	オカリナ	不定期	1
	音楽療法	月1回	12	童謡	月1回	2
	由遊会	不定期	3	夢楽ライブ一座	単発	1
	三味線（豊祥会）	不定期	1	腹話術	単発	1
	ロコモ体操	月1回	10	ポーセラーツ	単発	1

	むつみの会	不定期	4	ウキウキあーる	単発	1
	ハーモニカ（ムジカ）	2 月 1 回	6	イングリッシュハンドベル	単発	1
	陶芸	月 1 回	6	ジャズコンサート	単発	1
	童謡	2 月 1 回	4	ウクレレ・ハーモニカ	単発	1
	囲碁	週 1 回	12	ミュージックケア	単発	1
	陽なたぼっこ（楽器）	不定期	4	リコーダー	不定期	2
				合計	106	

1. 基本方針

- (1) 利用者に安心かつ笑顔で過ごして頂けるよう、各職員が思いやりの心を持って、サービスを提供する事ができた。
- (2) 職員一人ひとりが『在宅での生活の継続が目的』ということを考え、在宅での生活が継続できるよう支援した。

2. 年度目標

- (1) 他部門と連携し、利用者、ご家族の思い・希望に沿った対応をする事で、『また陽だまりの丘を利用したい。』と思って頂けるように努めた。
- (2) 新規利用者・・・38 名(達成率 126.7%)
稼働率・・・98.9%
空床稼働率・・・91.6%
新規利用者については、目標を達成する事ができた。また、質の高いサービスを提供する事で、定期的に利用したいとの希望が多く、リピート利用される方が増えた。稼働率は、インフルエンザによる営業中止の影響があったが、98.9%と目標は達成できた。影響がなければ、年間稼働率 100%は達成出来る予定であった。来年度は感染委員と連携を取り、施設内での発症・感染拡大の予防に努め、稼働率の向上を図る。
空床稼働率も介護支援専門員、と連携し、91.6%と目標は達成できた。
- (3) 利用者、ご家族の意向に合わせた機能訓練を実施し、ADL の維持・向上に努めた。

3. 事業活動計画

(1) サービス計画

1) 利用者・ご家族との連携

- ①担当介護支援専門員が作成した居宅サービス計画書に基づき、個々の状況や希望に沿った短期入所生活介護計画書を作成し、適切なサービスを提供できた。
- ②利用中や送迎時などに、利用者、ご家族と積極的にコミュニケーションをとる事で、信頼関係を築き、安心かつ安定した生活が送れるよう、努めた。

(2) 短期入所生活の支援

- ①自宅での生活に近づけたサービスの提供を行い、自宅に近い環境、または対応で、安心して過ごして頂けた。
- ②食事する環境・使用する食器類を整え、食べる意欲を引き出し、また、利用者の出来ることを見極め、自己摂取ができるよう、支援できた。
- ③利用者の希望、または ADL に応じた入浴設備を利用することで、安全かつ快適に入浴して頂けた。
- ④利用者のプライバシーに配慮した適切な排泄方法を見極め、排泄の支援をした。
- ⑤利用者の ADL に応じた送迎車で、ご自宅と施設間を安心かつ安全に送迎できた。

(3) 教養娯楽・趣味の実現

- ①施設内行事、ボランティア活動を通じ、社会交流に取り組んだ。ショートステイの方を対象としたイベントも実施した。
- ②ユニットでのレクリエーション活動や日常生活の中で、ユニットの入居者や職員と交流する機会を持って頂き、充実した生活を送って頂けるように支援できた。
- ③希望があれば、趣味に必要な物を持参して頂き、利用中に趣味を楽しめる時間を提供した。

2) 食事・栄養計画

(1) 栄養管理の実施

他部門と連携し、利用者の食事摂取状況や、身体状態の把握に努め、適切な栄養管理を行った。

(2) 在宅における栄養相談

栄養相談を行い、利用者の栄養状態に応じて、栄養補助食品等の補食を提案した。必要な方には補食を持参して頂き、日々の摂取量をみながら、必要に応じて提供した。

(3) 食事の支援

利用者の咀嚼・嚥下状態を確認しながら、他部門と食事形態を検討し、安全かつ、おいしく食事を楽しんで頂けた。

(4) 各種調査の実施

管理栄養士が定期的な嗜好調査を行い、利用者の嗜好や要望を把握し、栄養改善委員会で検討することで、利用者により満足して頂ける食事を提供する事ができた。

3) 健康管理・医療体制

(1) バイタルサインチェック

看護職員による定期的なバイタルサインチェックにより、体調変化の早期発見に努めた。

(2) 日常生活における観察

①入浴時などの全身観察

②食事・水分摂取量の観察

③排尿・排便回数、または状態観察

④体重の増減の観察

(3) ご家族・主治医・訪問看護との連携

ご家族、主治医、訪問看護と連携を取ることで、適切な看護及び医療的処置を行えた。

(4) 病院受診

①発熱等の体調不良時は、ご家族に相談し、病院受診して頂けた。

②転倒等の事故発生時は、バイタルサインチェック・身体の外傷観察・痛みの有無を確認する。その後、ご家族に連絡し、状況に応じて病院受診して頂いた。

(5) 夜間看護体制

夜間、体調不良や事故発生により救急処置が必要となった場合、看護職員にオンコールし、指示を仰ぐことで、24時間連絡体制を確保した。

(6) 内服薬・外用薬の管理

自宅で内服薬・外用薬を自己管理されている利用者は、自宅同様に自己管理して頂き、自立支援に努めた。

利用者・ご家族から看護職員に管理の要望があれば、看護職員が管理させて頂き、服薬の支援をした。

(7) 衛生管理

感染対策委員会の指示の基、感染症予防対策の実施、環境整備による感染症予防に努めた。

4) 機能訓練

利用者・ご家族の希望を確認し、機能訓練指導員・生活相談員・介護職員が中心となり、身体機能を整えるとともに、日常生活動作の維持・向上を目的とした機能訓練を実施できた。

5) 事故防止

安全対策委員会と連携し、事故報告書・ひやりはっと報告書から事故発生の危険性が高い利用者への対応を早急に検討し、事故発生・再発の防止に努めた。

6) 苦情・相談処理解決

苦情、相談はサービスの質の向上に繋がると考え、内容を真摯に受け止める。その後、迅速かつ誠意をもって対応することで、業務改善に取り組み、サービスの質の向上に繋がった。

7) 個人情報の保護

個人情報保護法に準じ、個人情報の漏洩が発生しないように管理する。利用契約時に個人情報の取り扱いに関して説明し、同意書を頂いた。

1. 基本方針

利用者一人ひとりの意見や希望などを取り入れることで利用者の立場に立ったサービスの提供ができた。レクリエーションの内容を見直すことで有意義に過ごしていただくことができた。できることはご自身にてしていただくようにすることで、その方らしくかつ在宅での生活を継続できるよう支援できたと考えている。

2. 年度目標

新規利用者は 22 名。年間稼働率は 72.8% となった。各居宅介護支援事業所とは連絡を取っていたが、営業活動が足りていなかったことが中間期の稼働率の低下を招いていた。2 月 3 月においては理美容サービス、FAX を活用することで若干の上昇となった。

3. 事業活動計画

1) サービス計画

居宅サービス計画書の基づき、ご本人の希望に沿った通所介護計画書を作成し、適切なサービスが提供できた。

2) サービス内容

(1) 送迎

利用者の身体状況や住居の環境を把握し、安全に送迎をすることができた。安全を第一に考え運転、車両の点検・整備を実施した。インフルエンザ流行期には車内の消毒を実施した。コミュニケーションを図る場所としてご家族に利用中の様子やご自宅での様子を伺うことができ信頼関係の構築の場となった。

(2) 入浴

利用者の身体状況や希望に合わせ、一般浴・機械浴での入浴の提供ができた。

(3) 食事

口腔内・咀嚼能力の状態に合わせて、適した形態の食事を提供できた。嗜好調査を行う事で、提供する温度や内容などの改善につながった。管理栄養士と相談をし、イベント食を実施することができた。

(4) レクリエーション

年間計画を立て、季節に合わせた内容のクラフト作りや誕生日会の実施、利用者の状態や希望に応じて、内容や時間などを考慮し楽しんでいただけるレクリエーションの提供ができた。体を動かす内容や、作品作りなどの実施が少なかったため、12 月より活動の内容を周期になるよう見直した。

(5) 口腔ケア

口腔ケアセットを持参していただき、昼食後に口腔ケアを実施していただいた。持参されなかった方へはうがいをも促した。

(6) 個別機能訓練

利用者の意向や目標から、達成に向けてのプログラムを検討し実施できた。実施することで著しい ADL の低下は見受けられなかった。

(7) 服薬管理

希望者には、看護職員から服薬の管理・介助を行った。ダブルチェックをすることで、飲み忘れや飲み違いのないよう対応できた。

3)

(1) バイタルサインチェック

バイタルサインチェックをすることで、健康状態の把握、早期の体調の変化の発見に繋げる事が出来た。変化があった際には看護職員と連携しご家族と相談をすることができた。

(2) 医療機関との連携

体調に変化があった際には、ケアマネジャーと相談をし、主治医や訪問看護の連携することができた。

(4) 衛生管理

感染予防委員会及び衛生委員会にて検討された内容に関し、職員間で状況を共有できた。定期的に備品などの整理を行えた。

(5) 事故防止

細かな気づきや変化に関して職員間で情報を共有し、ヒヤリハット報告や事故報告の内容を把握し、

改善策を検討し対応することができた。

(

(6) 苦情処理解決

苦情が7件あったが、迅速に対応し解決に至った。

(7) 個人情報保護

職員一人ひとりが意識を持つことで、個人情報の漏洩を防止することが出来た。

(8) 人材育成

施設内研修には送迎時間の関係上、ほぼ参加することが困難であったが資料の閲覧し新しい情報を取り入れることができた。結果、業務に対しての姿勢を見直すことができたと考えられる。

(9) 業務改善

全体ミーティングを開催することで、業務内容の見直し、利用者の情報共有、職員間の連携を確認することが出来た。

(10) 営業

各居宅支援事業所へ訪問・電話・FAXをし、空き状況やイベントの伝達をした。

利用者一人ひとりの意見や希望などを取り入れることで利用者の立場に立ったサービスの提供ができた。ただ、すべての意見や希望に応える事が出来ずに、有意義な時間を過ごして頂く事に関しては改善の余地があると考えられる。ご家族のレスパイトに関しては、出来る限り希望に沿ったサービスを提供できた。

(別表1) 年間行事報告

月	日	行事
4月	2日	・お花見
5月	9日、10日、11日	・地域交流会（バラ園見学）
6月	22日、23日 25日 28日 29日	・外食ツアー（喫茶） ・家族会（夢楽ライブ一座）
7月	3日 7日	・大野台保育園交流会 ・七夕（七夕飾り）
8月	11日 18日 29日、30日、31日	・夏祭り ・うきうき交流会 ・南第二小学校交流会（作品展）
9月	17日	・敬老会（ジャズコンサート）
10月	15日 27日	・家族会（陽なたぼっこ） ・運動会
11月	12日、13日、14日、15日、16日	・外出ツアー（買い物）
12月	21日 25日	・クリスマス会 ・うきうき交流会
1月	4日	・新年会
2月	1日	・節分
3月	4日	・雛まつり

1. 基本方針

地域のボランティアの方々、講師の方々との連携を密に図る事で、教室・活動を通して、質の高いサービスの提供ができた。また、ご利用者の選択・興味を優先したサービスの提供で生きがいについての支援を遂行できた。

2. 目標

(1) 今年度の重点目標

1) 年間稼働率 86.8% (午前 87.1%、午後 86.7%)。

目標数値を達成できなかったが、活動の種類、内容の改善について整備することができ安定していた。

2) 地域ニーズにあった健康志向を意識した活動を増やすなど、フレキシブルな自立支援を図ることができた。介護度の軽減については、成果として実感できる程ではなかった。

3) 職員の入れ替わりの影響もあり、連携面については不十分な状況も

あったが、協調性は十分であり、サービスの質を維持できていた。

3. 活動計画

(1) レクリエーション (生涯学習)

1) ご利用者の意見を取り入れ、既存の活動内容の改善、回数の追加、新しい教室の導入をすることで生きがいや楽しみの提供が出来た。

(2) 入浴

1) ご利用者の特徴を把握し、必要最低限の介助に努めることで、個浴で安心して入浴をして頂くことができた。

(3) 個別機能訓練

1) それぞれの住宅環境や疾病の特徴、希望をしっかりと把握し計画を立てることで、より在宅生活継続に繋がり、また機能訓練への意欲的な参加に繋がった。

(4) 食事

1) 昼食については意見書や嗜好調査でご利用者の希望や意見を把握することができたが、それを活用し還元することが不十分であった。

おやつに関しては、意見の収集自体が少ないことが課題である。

(5) 送迎

1) 車両事故計 7 件あり前年度より 1 件増加。負傷者は出なかったが、職員の送迎についての指導が十分に行えず、快適な送迎サービスの提供について課題が残った。

(6) 安全管理体制

1) ヒヤリハット報告書計 18 件。昨年度より 13 件増加。

積極的にヒヤリハット報告書を挙げ、リスクマネジメントに対する意識を持つことで事故の防止に活用することができた。

(7) 苦情解決

1) 苦情受付書 1 件。昨年度より 2 件減。日々の意見、要望についてしっかり傾聴し、可能な限り反映するよう努めることで大きな苦情に至

らなかった。

(8) 地域活動

1) ブログ、地域の回覧板への掲載、ハートケアフェスタへの参加、コミュニティ誌の活用頻度を増やすことで地域の方への結いまーるの宣伝を行えた。しかし、『花ごよみ』の活用については課題が残った。

(9) 防災安全対策

1) 防災マニュアルについて、災害別にするなど見直しが更に必要である。

避難訓練については、地震、火災に区別して計画的に行うことができた。

2) 消防設備点検を計画通り実施することができた。

(10) 個人情報の保護について

1) 個人情報保護の規定について特に、改めて整備する必要がなかった。

必要に応じて見直しを行っていく。

2) 玄関へ設置することで、誰でも閲覧可能にできている。必要に応じて置き場所等見直しを行っていく。契約書についても明記しており、説明し納得の上署名をいただいている。

3) 職員採用時の守秘義務契約書の提出が義務付けられており、個人情報の漏洩防止について徹底できた。

4) 特に問題はなく、必要な際は整備を行っていく。

5) 内部研修については実施でき、個人情報についての意識を再確認する機会を持てたが、外部研修への参加については参加できず課題が残った。

6) 鍵のかかる書庫での管理、アクセス管理について徹底した意識を持って管理に努めることができた。

社会貢献事業 事業報告

平成29年度 相談援助報告内容

	55 歳 男性	妻と2人暮らし
期間	H30. 8. 29～	
相談内容	疾病や退職により、給料が入って来ず、食材やガソリン代、家賃の支援をして欲しいと相談あり。カードローン100数十万円、国保滞納10数万円、家賃と駐車場代を2か月分の滞納あり。また以前に生活福祉資金を90万貸与されたが、返済も滞っているため、もう借りる事ができない。	
支援内容	受診代を支援する。 後日、貯蓄があるにも関わらず、車のバッテリー代金の支払いを希望される。また、給料収入があるにも関わらず、家賃の支払いを希望される。別の支援を提案するも、受け入れられず。音信不通となる。	

	40 歳 女性	妹と妹の彼氏に在住される
期間	H31. 3. 15～	
相談内容	鬱を患っており、仕事には休みがちである。不足するお金は妹が全て支払っており、市府民税や国保・育英会・携帯代等の滞納や、カードローンもある。妹の彼氏の家に転居する事により、生活も少しは安定すると思われた矢先の通勤途中に、階段から落ち、足・尾骶骨骨折。労災のお金が入るまでは、医療費も実費であり、妹ともギクシャクしてしまっているため、家賃と光熱費の1/3を支援して欲しい。	
支援内容	食材や受診代、また本氏より携帯がないと不便且つ不安との思いが強いため、携帯代、ガス・電気1か月分を支援する。	

2. 研修会

- (1) 大阪狭山市社会貢献事業連絡会 出席5回
- (2) コミュニティソーシャルワーカー養成研修会3日間参加